

特集

市民活動と地域



ボランティア

ボランティア活動を始めたい、ボランティアを募集したい等の様々な相談を受け付けています。また個人、団体でのボランティア登録を受け付けており、登録された方には定期的にボランティアに関する情報をお届けしております。ボランティア活動に興味のある方はぜひご来館ください。



NPO法人

NPO法人の設立・運営に関する相談や、各種提出書類の相談窓口を開設しています。特に、法人の設立及び定款変更の認証申請書類の作成に関しては、留意していただく事項が多いため、事前に申請書類の作成に関する相談や質問、申請に必要な書類の確認をするなどの事前相談を実施しております。また法人の活動状況把握のための訪問や、要望に応じたの出前相談会も行っております。



くまもと・わくわく基金／その他助成金

「くまもと・わくわく基金」や「その他助成金」に関する相談を受け付けています。「くまもと・わくわく基金」から助成を受けるには、あらかじめ基金団体登録をしていただく必要があります。申請書や報告書など書類の書き方の説明や、団体の運営相談などを受け付けています。また、「その他助成金」に関しては、ホームページに掲載し、窓口ではその他助成金に関する説明・紹介等を行っております。



Let's go あいぽーと!

あいぽーとでのイベント情報をFM791のラジオで毎週月曜日朝8時40分より配信しています。「Let's go あいぽーと」を聞いてあいぽーと情報をゲットして遊びに来てください。

放送日／毎週月曜日 8:40～

※生放送のため、開始時間が前後する場合がございます

あいりぽーと

毎月、あいぽーとスタッフが、熊本市内で活動されている団体取材し、FM791のラジオ番組「校区のチカラ」の中で取材報告をしています。

放送日／毎月第2金曜日 14:00～

詳細については、お気軽に下記までお問い合わせください。

熊本市市民活動支援センター・あいぽーと

TEL:096-366-0168 FAX:096-366-8830
Mail:aiport_kumamoto_city@joy.ocn.ne.jp



ホームページは
コチラから

食をきっかけに
ゆるく繋がる
居場所づくり

おたがいさま食堂くまもと 代表
池田 亜須香

略 歴
管理栄養士・日本糖尿病療養指導士として熊本市内の医療機関に勤務。市民団体などの健康推進活動団体を通じて健康づくり応援を行う。2016年1月に「おたがいさま食堂くまもと」を発足し、「こ食（孤食・個食・固食・小食など）」から「共食」へと、食の質や心を豊かにする取り組みをしている。



クローズアップ人

今回は管理栄養士の経験から「食」に対する活動を広げてきた池田さんにクローズアップ。地域の人が集まり、一緒に作って一緒に食べる「共食の場」として活動を続けるおたがいさま食堂の代表を務めます。

—— おたがいさま食堂の活動を始めたきっかけは何ですか？

病院や施設で食事の提供・食事指導をする中で、利用者の食習慣や生活習慣に携わったことが今の活動の原点です。

生活習慣病の方は年々増加また若年層化し、病院に来られる時には重症化しているケースも多々あります。その予防のためには早期からの食習慣の見直しが必要です。また、どの世代でも一人で食事をする方が増えてきて、「ごはんがおいしくない、食べる気がしない」といった言葉を聞くことも増えたことから、もっと地域と連携し、地域の人達が集まって一緒に作って食べる「共食の場」があればと考えました。

—— 活動の運営にあたっての理念や信念を教えてください。

なによりも「食事は楽しみでないとけない！」という思いが出发点です。同時に、

食や健康の事を考える学びの場にもなって欲しいと考えました。様々な世代が集まって一緒に料理をすることで、地域の問題を共有して解決の糸口になったり、知っていることを教え合うことでやりがいを感じる方もいます。

ボランティア活動は無理なく長続きすることが大事だと思います。誰かが無理をして続けるような活動にならないように、「無理せず楽しく」できるしこ、のこることを「みんなで一緒に作る」という理念を最初に決め活動しています。

—— 今後の活動の予定や展望は？

昨年は地震の影響で活動場所を転々としていましたが、これからは中央区の香福寺を拠点に、同じような活動を始めたい方へのサポートもしていきたいです。私達以外にも、それぞれの地域の方が食材を持ち寄って、作って食べて話す、そんな場所がたくさんできると嬉しいです。誰かと一緒に作ることで、食事は非常に大事な人間の営みです。「食」が本来持っていた意味や意義が戻ってくるように…これからも活動を続けていきます！

あいず
eyes 2017.3 Vol.10

eyesは、ボランティアやNPO活動を
“つなぎ・育て・見守る”視点(eyes)で
制作しています。

もくじ contents

特集 市民活動と地域

- 池田小学校区×地域福祉委員会
ふれあいランチ事業 03
- 黒髪小学校区×紫熊祭実行委員会
ゴミ出し啓発運動「ZERO PROJECT」..... 04
- 一新小学校区×自主防災クラブ・自治協議会
防災活動&災害対策 05

- クローズアップ 人 01
- 「くまもと・わくわく基金」レポート
冠寄附企業ヘインタビュー！
東京エレクトロン九州株式会社に聞きました 06
- わくわく基金 その後の話 08
- ご協力のお礼と寄附者のご紹介 10
- 数字で見るあいぽーと 11
- アクティブNPO 12
- あいず ボランティアレポート 14
- あいず川柳道場 15
- 「あいぽーとソング」が出来ました♪ 16

●表紙について

鎮守の森

今回の特集は「地域」がテーマ！ 悠久の昔から私たちの暮らしを見守って来た鎮守の森の写真を表紙に使用しました。まだまだ復興途上の熊本ですが、また新しい春が来ます。木々が芽吹き、葉が茂り、いつかまた美しい森の都へ…。そんな願いを、市内各地で行われる市民活動に重ね合わせました。



池田小学校区×地域福祉委員会

池田校区のふれあいランチ事業

どんな活動なんですか？

高齢者世帯など、地域の中で援護を必要とする人々へ向け、手作りのランチをお届けする取り組みです。毎月第2、第4金曜日に実施しています。また、毎年行われている地域の防災フェアでも炊き出し訓練に参加しています。昨年の地震の時にいち早く炊き出しを実施できました。



ここがスゴイ！

- **なんと平成2年に発足！**
今年で27年目になる息の長い取り組みです。今までに活動に参加した人の延べ人数は467人！
- **全ての行程を校区独自で！**
仕込みや調理はもちろん、献立作りや食材の調達、各家庭への配達まで全てを池田校区の皆さんの手で行っています。
- **小学校の授業の一環に！**
池田小学校の授業の中に、ランチの配食が組み込まれています。このことをきっかけに、池田校区は子どもから高齢者まで繋がり深い地域となりました。

活動している人に聞きました！

池田校区地域福祉委員会 丸山さん

● どうしてこんなに長く続けられるの？

地域の方の理解と協力がなによりの原動力です。他にも、参加する人は役職などの肩書も外し、当番制にもせず、誰でもいつでも登録し参加できるような体制をとっていたことが、これまで続けられた秘訣かもしれません。当初は作る側でしたが、いまでは受け取る側になった方もいるそうです。



● 地域の外からもこんな声が！

定期的に食事を届けることで、住民の安否確認という重要な役割を果たしています。離れて暮らしているご家族から、「地域の方々で見守っていただける環境はとても安心です」と言われます。

市民活動と地域

日本全国各地で行われている市民活動。もちろん、ここ熊本市でも沢山の市民活動が行われています。今回のあいず特集では、「地域と市民活動」をテーマに、地域に密着し、そこに住む人々の生活に深く関わる活動をご紹介します。どの活動も「地域のためのために」との願いを原動力に、そして地域の人々に支えられて続いている活動です。活動の体制や歴史、関わる人々の想いをあいず編集部が調査しました！



池田校区の
ふれあいランチ事業



ゴミ出し啓発運動
「ZERO PROJECT」



一新校区の
防災活動&災害対策

一新小学校区×自主防災クラブ・自治協議会

一新校区の防災活動&災害対策

どんな活動なんですか？

「私たちの暮らしは私たちで守る」「そなえよ、常に備えよ」をテーマに、地域の防災に取り組み、年に一度の防災フェアも実施しています。昨年発生した熊本地震では、校区が一体となって対策本部を立ち上げました。多くの地域では行政や学校が主体となって対策や避難所運営が行われた中、以前から防災への意識を高めていた一新校区では、住民それぞれが力をフルに発揮してくれました。



ここがスゴイ！

●まさに「自助・共助」のお手本！

自分たちで立ち上げた地震対策本部では、食事や生活物資の確保と配給、駐車場整理、給水補助、住民の安全確認と支援、健康管理、施設管理、ボランティア受け入れなど、運営に必要な業務を細かく分類し、それぞれが連携を取りながら状況に応じました。

●普段からの備えも万全！

校区を東と西の2班に分け、防災意識を高めるため各町内でハザードマップも作成しています。地域住民が直接参加し、自分の目で確認して作成することで危険箇所を知るきっかけになります。

活動している人に聞きました！

一新校区自治協議会長 毛利さん

一新校区自主防災クラブ会長 宮本さん

●スムーズな連携が取れた要因は？

「私たちの暮らしは私たちで守る」を住民の一人ひとりが意識して心がけていたことが一番の要因だと思います。日頃からの意識の統一が、連携をとるうえで大事ではないでしょうか。

●一人ひとりが防災担当者のつもりで！

自主防災クラブの会長に任命されてから、まず最初に防災士の資格を取得しました。私は極端な例かもしれませんが、住民一人ひとりが防災に関しての知識や意識を高めることが、集団として、地域としての防災力を何倍にも高めてくれます。



黒髪小学校区×^{しぐま}紫熊祭実行委員会

ゴミ出し啓発運動 「ZERO PROJECT（ゼロプロジェクト）」

どんな活動なんですか？

学生のゴミ出しマナーについて、近隣からの提言を受けてスタートした清掃&ゴミ出しマナー改善のための活動です。大学・地域・NPO 法人が連携して地域のごみステーションを見回っています。ステーション内のごみにルール違反がないかをチェックして、違反ごみにはステッカーを貼って注意を促します。



ここがスゴイ！

●見違えるほどキレイに！

始めた当初は、歩く場所もないほどごみが散乱して交通上危ない箇所もありましたが、今では美しく、安全に通行できるようになりました。

●地域内で広がる連携の輪！

大学のサークル活動としての枠にとどまらず、熊本大学や熊本市、黒髪小校区の3つの自治会、NPO法人のCAMBUSなど多方面と連携しています。多くの人が関わることで活動の原動力にもなっています。

●違反削減への話し合いも！

ごみステーションの見回りの後は、校区の公民館で違反ごみを無くすための解決策を話し合っています。違反を見つけるだけでなく、街がきれいになる未来も考えて活動しています。

活動している人に聞きました！

熊本大学 第六回紫熊祭実行委員会 環境部長 阿南さん

●紫熊祭実行委員会って？

「紫熊祭」とは、熊本大学の学園祭のことです。学園祭を運営する中心となるのが紫熊祭実行委員会、私たちはその中の環境部で活動しています。地域の方々との関わりも深まり、今ではサークル活動というより、地域の一員として取り組んでいます。

●自分たちができることを頑張りたい

地域の方々と共に活動を続けてきたことで、熊本地震の時にボランティア活動を行ったり、大学の行事では準備に協力していただいたり、お互いにより深いつながりをもつことができました。これからも多くの学生にこの活動を知ってもらい、もっと地域に貢献していけるようになっていけたらと思います。



「くまもと・わくわく基金」冠寄附

東京エレクトロン九州株式会社に聞きました



(左)伊吹さん (右)大野さん

何か少しでも貢献できればとの思いで、これからも「地域」を大切に、取り組みを継続させることが大事です。



「くまもと・わくわく基金」は、NPOや市民団体が実施する様々な市民公益活動に対して助成を行っています。その財源は、市民や企業の皆様からの寄附によって支えられています（P10参照）。今回は、冠寄附をいただき「東京エレクトロン九州・マッチングギフト」という名称で平成29年度助成事業を行う東京エレクトロン九州の皆さんに日頃の社会貢献活動に対する想いを伺いました。

●冠寄附とは

100万円以上の寄附に対して、寄附者の希望する名称を冠して助成を行う仕組みです。

（おはなし）

東京エレクトロン九州株式会社
執行役員管理本部長 伊吹 方志さん
管理本部総務部長 大野 慎治さん
管理本部総務部主任 山崎 正盛さん

Q1 貴社は様々な社会貢献活動を行っています。活動に取り組む上で、企業としての基本的な考えを教えてください。

伊吹 私たちが事業を行うにあたり、その基盤となっているのは日頃から大変お世話になっている「地域」だと思っています。弊社は、グループ自体は創業50年以上、熊本においても30年以上前に進出し、協力企業の方や派遣の方も含め、約3,500名もの方々がこの事業所で働いています。その従業員それぞれがご家族とともにそれぞれの地域に住み、その地域の方々にもお世話になっています。私たちは、そういう「地域」をこれからも大切にしたいし、何か少しでも貢献できればとの思いをベースに、福祉や子育てなどの活動に重点を置いて取り組んでいます。また地域の課題に対して解決に向けた取り組みをしておられるNPO等の団体への支援を行うなど、「地域貢献」にも力を入れているところです。

大野 国内で8社、海外で40社弱のグループ企業がありますが、それぞれ地域の活性化や環境保全など、それぞれの地域の課題に対して貢献できるよう活動しています。

Q2 具体的な取り組みや活動について聞かせてください。

大野 弊社では、主に半導体製造装置を製造しておりますが、半導体関係というのは大変水を使う事業です。そこで、水を多く使っている分、地元とその恩恵を還元しなければいけないということで、環境面に関

しては特に気を使っており、地下水使用量の削減や森づくり、CO2の吸収量の認証などにも取り組んでいます。

また、その他にもスポンサー活動として「熊本城マラソン」や「合志市カントリバークリレマラソン」、あるいは「青少年のための科学の祭典」や「ジブリの立体建造物展」への協賛など、芸術分野での協賛や清掃活動、NPOの方に対しての寄附やマッチングギフトなどの取り組みも行っています。

伊吹 その他にも、毎年10月に社員とその家族および協力企業の社員を対象にした「サンクスデー」というイベントを開催し、全従業員とその家族の交流・結束力の向上を図るとともに、日頃の感謝の気持ちを込めて、パートナーの方々をおもてなししています。

山崎 今年は震災がありましたので、「サンクスデー」には被災地からも特産品などを出店していただき、少しでも被災地の復興に繋がるよう心がけました。

大野 当社は、食堂や自動販売機の利用

用語解説 マッチングギフトとは

企業や団体などが社会貢献を目的として寄附や義援金を募る際、寄せられた金額に対して企業側が一定比率の額を上乗せし、寄附金額を増やした上で寄附する上乗せ贈与制度。近年では、会社が従業員からの寄附金と同額を拠出し、従業員の募金活動をサポートする制度として用いられる。

による社員からの寄附に、会社が同額を上乗せするマッチングギフトという取り組みを行っております。その寄附金を原資に地域の社会福祉協議会などに寄附させていただいています。また、子育てや福祉・文化・芸術・スポーツなどの活動をしているNPO等の方への助成支援も行っています。元々は環境保全やまちづくりの推進といった目的でスタートしましたが、近年は対象範囲を広げたことで応募件数も倍増しており、その中で審査して助成しようと思っています。

Q3 企業として社会貢献活動に取り組むことになったきっかけは？

伊吹 きっかけについては、弊社の20周年を機に社内では社会貢献についていろいろと検討して、なるべく貢献をしようという方針が決まったように理解しております。

大野 会社が発展していく過程で、20周年を契機に地域や外に向かって発信しようというところで、寄附や植樹などに取り組んだのがスタートです。

山崎 立ち上げ期には、その専門知識やノウハウがありませんでしたので、いろいろなところにご相談し、アドバイスを頂きながら、少しずつ活動の幅を広げてきました。

Q4 活動に取り組む中で、社員の影響や

反応は？

伊吹 活動している内容は弊社のインターネットやポータルサイトで紹介していますので、社員にも理解してもらい、自分たちが地域に貢献しているというモチベーションや意識づけになっていると思います。また「熊本城マラソン」にはゴールドスポンサーとして協賛していることから、社員もボランティアを含め150名ほど参加しています。これを機にマラソンを始めた社員もいると聞いております。

Q5 今回、「くまもと・わくわく基金」へ冠寄附を頂きましたが、この基金への寄附や市民活動団体等への思いを聞かせてください。

伊吹 会社としては合志市、菊陽町、大津町が地元となりますが、弊社の社員の多くが熊本市に住まいがあります。先ほども申しましたが、会社がある地域だけでなく、社員が住んでいる地域にもお世話になっていますので、そういったところにも貢献活動を広げてはどうかとの声もあり、その活動方法を探す中で熊本市における市民公益活動を応援する「くまもと・わくわく基金」が実施されていることを知り、会社としてその事業に賛同し、寄附という形となったものです。地域が抱える課題解決のために、市民活動が重要な役割を担っており、

伊吹 まずは現在行っている取り組みを継続させることですね。1回で終わることがないよう今後も継続して取り組んでいきたいと考えております。また、地域も含めてもう少し活動を拡大できればと思っています。それには、できる限り地域や自治体の方々からご意見を伺いながら、今年は30周年であることも踏まえ、今後さらに何をどうできるかを考えてみたいと思います。

大野 あまり新しいことをやるより、今まで取り組んできたことをしっかりと継続し、30周年記念イベントに合わせていきたいと思っています。

以上、東京エレクトロン九州の皆さんに、社会貢献活動などの様々な取り組みに対する企業としての想いを具体的に語ってもらいました。これからもより良い熊本づくりのため、市民活動に対してのご支援よろしくお願います！今日は本当にありがとうございました！

（取材）あいばーとセンター長 桑原



Before

Q 夏目漱石にスーツというアイデアはどこから？

そんな経緯でできた青年部で、毎月第4日曜の朝にゴミ拾いを続けていました。「散策がてらゴミを拾って、地域のいいところをいっちょでも見つけてみようかね」という感じだったのですが、見つけちゃいました(笑)。冬のある時に駅前の夏目漱石像に小豆色のマフラーをかけてあったんです。それを見たメンバーから「服を着せてみたら面白いんじゃない？」と話が出て、洋服のオーダーメイドの



After

お店に、「夏目漱石の像が着る服、作れますか？」と頼み込んでみました。ちょうどタイミングよく出会った「わくわく基金」に申し込んで、期限ギリギリで申請をパス。基金の助成を受けて、特注の和装と洋装がそれぞれ完成しました。お披露目の際はテレビやラジオなどのメディアも注目してくれて、県内外からすごい反響でした。あの場所ですら初めて道路使用許可を取ったんですけど、大変な渋滞となってしまう、今後はもう許可が取れないそうです。

Q 最近ではどんな活動を？

昨年11月に「漱石アイスを作ろう！」という企画を実施しました。交通の要所であり、夏目漱石と縁があるという強みはあるのですが、「上熊本に来て駅に降りて、夏目漱石像を見て、じゃそのあとどうする？」というその先の回遊性の課題を抱えていました。「何か地域の目玉になるものが必要だよ」と漱石に絡めながら考え、調べてみると、大の甘い物好き(羊かん)とアイスが好物)という記述を発見！羊かんをベースにしたアイスクリームを試作して、その味を地域住民の方に決めてもらおうということで、駅前に試食コーナーと投票コーナーを設けました。併せて、小学生くまもと応援バンド「ブツクベア」が歌う「漱石ソング」も披露しました。ぜひ、聴いてみてください。



終始にこやかな表情の平野さん。「上熊本が好きで好きでたまらない」という気持ちが伝わってきました。青年部の活動は「くまもと・わくわく基金」の助成を受けた後も、周囲を巻き込みながら広がっています。今後の展開にもぜひ注目してくださいね！

また、他のエリアとも手をつないで熊本を盛り上げて行ければと思っています。上熊本で漱石を堪能して、市電に乗って本妙寺や新町の城下町を巡り、熊本城へ！そんな風にエリアをまたいだルートで熊本の観光を提案できたら面白いですね。

わくわく基金の その後の話

熊本市の様々な市民活動に対して助成する「くまもと・わくわく基金」。このコーナーでは、基金の助成を受けた事業・団体が、その後どのような発展をみせたのか追跡レポートします。第1回目の今回は平成26年度にスタートアップ助成を受けた「歴史が息づくまちづくり推進事業」。実施団体の上熊本商栄会 青年部部長の平野吉晃さんにインタビューしました。



Q 上熊本はどんなところですか？

熊本県で唯一、市電、JR、熊本電鉄の駅が一堂に揃うハブエリアなんです。また駅の裏側の井芹川沿いには、「ゆucaファミリーロード」というサイクリングロードが山鹿から島崎までつながっています。交通の要所であり、いろんなアクセス方法で上熊本に來られるところがスゴイ！と個人的には思っています。

Q 活動を始めたきっかけは？

この地域・団体でもそうなんでしょうけど、私たち上熊本商栄会もメンバーが高齢化して、若者の参加不足、後継者が不足に悩んでいました。また、上熊本にはマンションが多いのですが、通信インフラが発達した現代では隣の人の顔を知

らなくても生活できてしまうケースが多々あります。そんな状況に危機感を感じて、「若い人を集めて、とにかく何かやるうよ！」と結成されたのが青年部です。商業復興のみを目的に誕生したグループではないので、「これから上熊本でやれることはないか？」と探すところからのスタートでした。



上熊本商栄会 青年部

上熊本エリアで開業している若手を中心に結成。「上熊本で育った」「小中学校が上熊本」「職場が上熊本」など上熊本に(少しでも)縁があれば加入OK!

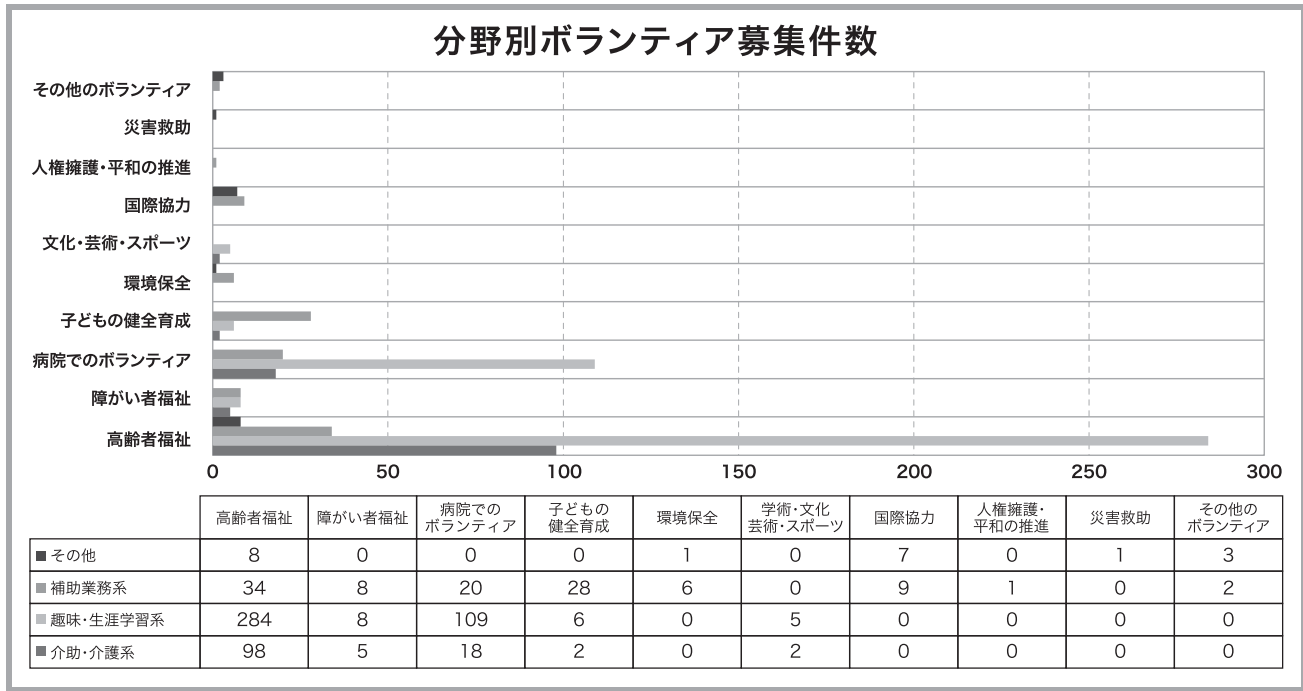
f 上熊本商栄会青年部 | Q

どんな事業？

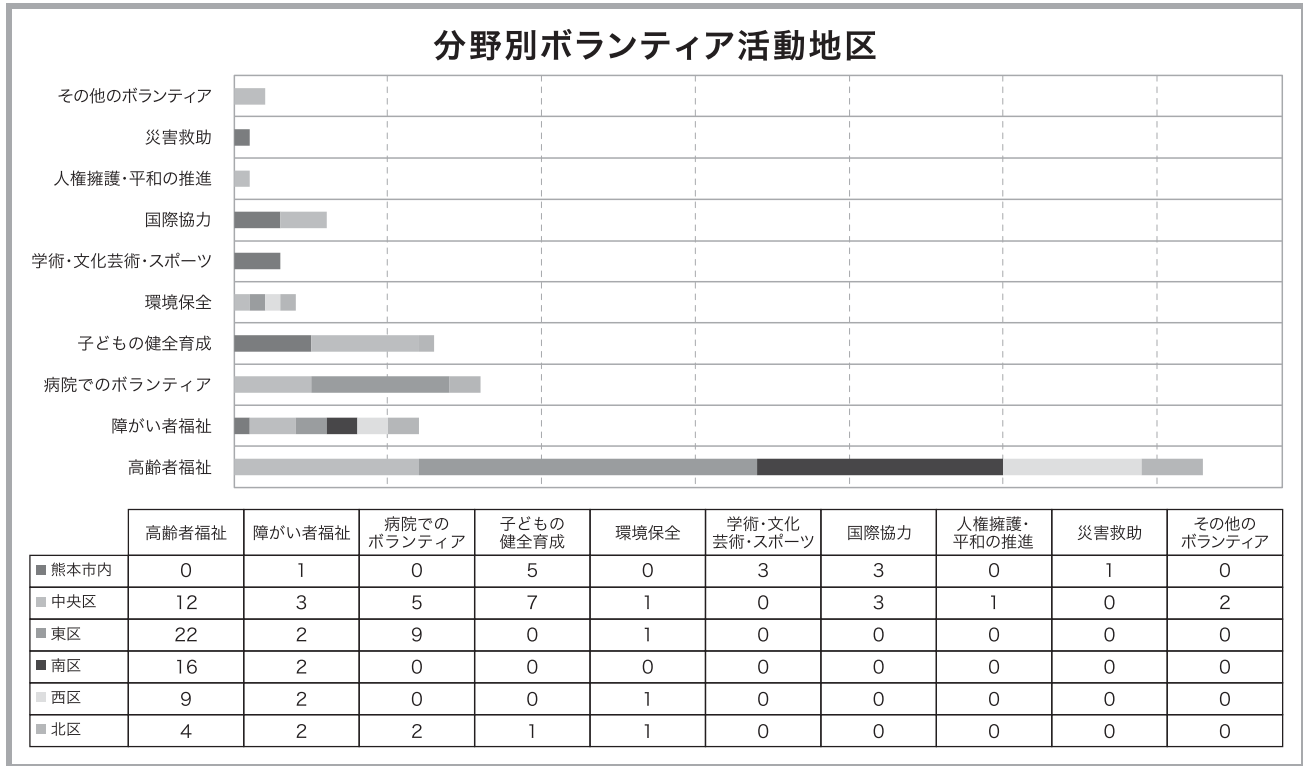
「歴史が息づくまちづくり推進事業」(平成26年度 スタートアップ助成) 上熊本ゆかりの偉人 夏目漱石の像に着せる特注のスーツと和服の制作ならびに上熊本散策マップの作成・配布を実施。新聞、ラジオ、テレビ等多数の取材を受け、夏目漱石ゆかりの地として多くの注目を集める。

数字で見る“あいぽーと”

今回は、あいぽーとが発行するボランティア情報誌「ボランティア募集情報 保存版」について数字で見ました。この本に掲載されているのは、募集期間を限定せず、常時ボランティアを募集されている施設や団体の情報を掲載しています。分野別で見ると、募集件数が多い「高齢者福祉」や「病院のボランティア」においては、利用者へ趣味や生涯学習系のボランティア（囲碁・将棋音楽書道など）が多く希望されています。



活動地区に関しても、「高齢者福祉」や「障がい者福祉」など募集件数が多い分野において、ボランティアを求めている施設が各区に万遍なく存在し、地区でのばらつきはあまり見られませんでした。（ボランティア募集情報保存版2016.11月号より）



熊本市市民公益活動支援基金 くまもと・わくわく基金

「くまもと・わくわく基金」へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

熊本市民の皆さま、法人・団体等の皆さまからのご寄附は、平成29年1月10日現在、12,808,465円となっております。ご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成28年7月11日から平成29年1月10日の間にご寄附をいただきました皆さまへ感謝の意を込め、以下にご芳名を掲載させていただきます。皆さまのさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【一般寄附】

- 株式会社 熊本市リサイクル事業センター 様 8,724円
- 株式会社 サンワイーテック 様 300,000円
- 高田 晋 様 20,000円
- 三浦 幸博 様 1,000円
- 水野 直樹 様 1,000円
- 山崎 直樹 様 10,000円

《ご要望により寄附額非公開の方》

- OA通信サービス 株式会社 様
- T&T 丸山 泰右 様
- 磯畑 周作 様
- 上村 博之 様
- 株式会社 お菓子の香梅 様
- 株式会社 宮食 様
- 桑野 恭輔 様
- 境 百合子 様
- 島村 武志 様
- 杉本 幸生 様
- 谷崎 謙一郎 様
- 徳山 理恵 様
- 野口 昭二 様
- 深浦 裕恵 様
- 古庄 美奈子 様
- 松井 崇 様
- 松田 大輔 様
- 村上 瑞紀 様
- 有限会社 オー・エス収集センター 様
- DeadChain復興同志会 様
- 赤峰 律子 様
- 猪口 浩二 様
- 浦田 憲治 様
- 株式会社 熊本シティエフエム 様
- 清田 圭一 様
- 桑原 芳文 様
- 澤村 知範 様
- 白石 順也 様
- 高智穂 さくら 様
- 手塚 朋宏 様
- 長生 修 様
- 野口 信太郎 様
- 福嶋 誠也 様
- 堀 史 様
- 松江 慎太郎 様
- 松本 富士男 様
- 矢野 幸晴 様
- 吉原 徹 様
- T&T 佐々木 崇 様
- 伊形 治美 様
- 上村 鈴治 様
- 加治 宏志 様
- 株式会社 パースト24 様
- 熊本新明産業 株式会社 様
- 小島 秀樹 様
- 嶋村 亜美 様
- 白石 直子 様
- 竹田 逸夫 様
- 土井 和子 様
- 中村 正昭 様
- 東 広大 様
- 藤本 明浩 様
- 益岡 宏規 様
- 松岡 洋一 様
- 丸内 晃子 様
- 有限会社 石翔 様

※その他、掲載を希望されなかった方 11名

寄附をお考えの方

「くまもと・わくわく基金」への寄附は、地域活動推進課窓口へ直接寄附金をお持ちいただく方法と、事前に必要事項を記入した「寄附申出書」を地域活動推進課へ送っていただき、その後返送された「納付書」をもって金融機関にて寄附金をご入金いただく方法があります。他にも熊本市役所庁舎1階に募金箱を設置しております。寄附額に制限はありませんが、2,000円以上ですと、地方公共団体に対する寄附として「ふるさと納税」扱いとなり、税制上の優遇措置を受けることができます。寄附のお申し込みやお問い合わせは、お気軽にあいぽーとまでご連絡ください。

あいぽーと TEL: 096-366-0168
ホームページ http://www.kumamoto-aiport.com/kumamoto_wakuwaku/

アクティブNPO



今回紹介するアクティブなNPOは、「里親制度」に関する広報啓発や里親家庭へのフォローを続ける特定非営利活動法人「優里の会」です。「まだまだ認知度が足りない里親制度をもっとみんなに知ってほしい!」と語る理事長の八谷齊さんにインタビューしました。



「先日、里親の方も参加してみんなでミカン狩りをしました(山鹿市)。師走の雨の中でしたが、皆さん喜んでおられて、開催して良かったです。」
優しい眼差しで活動写真を見ている理事長の八谷さん。



八谷 齊(はちや ひとし)
昭和35年 熊本市生まれ。熊本大学教育学部卒業後、山鹿市、旧矢部町、熊本市内の小学校4校で25年間の教師生活を務める。最後3年間は県の中央児童相談所に児童福祉士として出向し里親事業を担当。その後教職を辞し当時の同僚、上司を誘いNPO法人優里の会を設立。

活動のきっかけは
教員として働いていた頃、児童相談所に3年間出向する機会がありました。その時に里親の担当になり、里親制度、里親となる家庭、そしてそこで暮らす子どもたちに出会いました。児童相談所の児童福祉士(ケースワーカー)の業務は多岐多忙で、里親・里子の支援をするには不十分だし、限界もあると感じました。そんな時、大阪でNPO法人として里親支援をされている方の講演を聴き、熊本でも民間団体による里親支援が出来ないかと考えました。そこで、当時一緒に仕事をしていた方々に声をかけ活動することになりました。

こんな支援を行っています

県や市、児童相談所、里親協議会、各施設の里親支援専門相談員と連携しながら里親支援を行っています。里親家庭へ預けるまでではなく、預かった後の子どもとの関わり方に対する悩みなどが出てきた場合の相談窓口として里親・里子への相談やフォロー、里子への就業支援などにも力を入れています。昨年度からは里親の養育力を高めるための研修にも協力させていただいています。



児童相談所だけでは手が足りない!

里親支援は児童相談所でも行っていますが、私も以前、児童相談所で里親担当についていましたが、その現状は、職員の手も足りず、他の業務に忙殺されています。特に問題となっているのが、虐待に関する業務です。子どもの命に関わる重要な事案なので、相談者が訪れるのを待つだけでは、施設側から出向いて問題の芽を見つけ、事前に防ぐ必要があります。結果、以前から行っていた里親支援の業務が手薄になっている現状を知り、民間の里親支援が必要だと思いました。



行政の支援にも限界があります。ひとつの里親家庭に継続して関わり、子どもの背景やその後の状況も理解している相談相手が必要だと思っています。

里親制度をもっと広げたい

親元での生活ができない子どもへの対応は、里親制度の他に児童養護施設に入所するという選択肢もあります。幸い、熊本は他県と比べると施設の数が多く、問題となるケースがあればまずは施設へ



：という場合が多くあります。施設の先生達からの手厚い保護のもと、他の子ども達と集団で生活する経験は確かに重要で得難いものですが、里親制度にしかないメリットもあると思います。里親の良さは「家庭の温かさ、里親の優しさにふれる環境で子どもが育っていくという事」です。もっと具体的に言えば、その子が「家庭というイメージ」を持てるようになるのが里親の最大のメリットだと思います。その子が大人になり社会へ巣立ち、結婚し家庭を持ち、子どもを育てていくようになった時に、自分が「家庭」によって育ててもらった経験が、その後の人生を精神的に強く支えてくれます。子どもの現状を救うだけではなく、未来の社会にも大きく貢献する事業であることを、もっともっと皆さんに理解してもらいたいのです。また、里親というのは特殊な家庭ではなく、新しい家族の形として熊本の皆さまにも受け入れて頂ければと思います。

◆里親とは

里親とは、親の病気、行方不明、離婚などいろいろな事情により家庭で暮らせなくなった子どもたちを、自分の家庭に迎え入れて養育する人のことを言います。里親制度は、児童福祉法に基づいて、里親になることを希望する子どもの養育をお願いする制度として、昭和 23 年から実施されています。

◆里親の種類

里親は下記の4つに分けられます。

養育里親

専門里親

親族里親

養子縁組

まだまだ認知度が低いこともあり、一般に「里親」といえばペットの飼主募集や、養子縁組をイメージされることが多いのが現状です。



現在、熊本県内では社会的養護が必要な子どもが約 800 人居るといわれています。その内、施設で暮らす子が約 9 割です。国の指針では 3 割を目標に掲げていますので、まだまだ里親として力を貸してくれる家庭が必要です。

取材後記



私達大人の行動一つひとつが、子どもたちの現状、そして将来へと影響を与えます。大人の責任の重大さを改めて顧みる取材になりました。八谷さん達は、家庭の温かさを知らない子ども達に、優しい里親のもとで幸せを実感できる生活を心に刻み、社会人として頑張っているという願いから、この活動にアクティブに取り組んでおられました。世界の児童奴隷解放に取組んでいるアメリカの当時 9 歳の女の子だったビアン・ハーが言った一言が脳裏に浮かびました。「行動の伴わない思いやりは、思いやりではない」と。

あいず川柳道場

今回のお題「感謝」

毎回力作揃いのあいず川柳道場。今回は、激動の一年を振り返り、それぞれの「感謝」の思いを川柳に込めていただきました。

平凡な日々 いつも通りが ありがたい
(中央区 ジャスティン)

嫁に行き 早く言いたい ありがとう
(北区 さくたん)

当たり前 そんな日常に 日々感謝
(北区 秋)

ふと想う 周りの存在 ありがとう
(東区 ナッツちゃん)

支え合い 寄り添いながら 平和に感謝
(西区 Q)

嫁さんに 素直にでらん ありがとう
(中央区 よしちゃん)

年末に 母の背を見て ありがとう
(北区 水野)

何よりも 子どもに届け 感謝の心
(北区 プラモデル)

生きていく 感謝がいつも そばにいる
(北区 すん)

コーヒーうまし 我れ今日も 生きてる
(北区 かんちゃん)

地元力 寄り添いながら 助け合う
(東区 future)

豊かな心 全ての事柄に 感謝の念
(中央区 のぐさん)

次号のお題は、7月にあいぽーと窓口にて発表致します。詳しくはあいぽーとまで。

あいずボランティアレポート eyes volunteer report

私たちが参加してきました!



杉田浩美さん

岡村大輔さん

堤優太さん

小島拓望さん

私たちの生活の中に脈々と息づくボランティア活動。「ボランティア活動ってどんな団体が募集して、どんな人たちが参加しているんだろう?」そう考えたことってありませんか? 今回このコーナーでは昨年12月に実施されたイベント「くまフェス2016」を密着レポート! 学生ボランティアとして参加してくれた4人の声や、実施団体(受入団体)の感想も紹介します。

どんな事業?

花畑広場、辛島公園、サンロード新市街、カーリーノ下通等、中心市街地一帯を舞台に、アニメ、漫画、アイドルなどのポップカルチャーを通して熊本市の魅力を発信するイベント。2012年にスタートし、2万人を超える来場者が訪れる人気イベントです。(主催:NPO法人 グランド12、熊本城下のまちづくり協議会桜町地区会館)



どんなボランティア内容?



各ステージのイベントごとにカウンターを使って集客数をチェックするお手伝いをしました。コスプレをしている人を見ながらカウントできたので楽しかったです♪(杉田)

ラジオ中継のボランティアをさせていただきました。普段はできない事だったので、とてもいい経験になりました。(岡村)

参加してみてどうでしたか?



イベントの裏側って奥が深い! 華やかな表舞台を作り支える裏方のお仕事にすごく興味がわきました。

一昨年からこのイベントにボランティアとして参加しています。もともとラジオ関係に興味があったので、今回はとても良い経験をさせていただきました。



くまフェスには去年も参加しましたが、毎回たくさんの方と関わることでボランティアで、いつも楽しいです!



2万人を超える大規模なイベントなので、パトロールも重要ですね。気合を入れて頑張りました!(小島)

ステージイベントの警備や裏方をしたときは、アイドルとハイタッチすることができ、うれしかったです!(堤)

実施団体(NPO法人グランド21)へ質問!

Q/なぜ学生のボランティアを募集したんですか?

A/アニメ、漫画、アイドルなどの文化は若い世代に馴染みが深いので、イベント自体や、そこにボランティアとして参加することへのイメージを持ちやすいのではと感じていました。また、次世代を担う若い人たちに参画してもらうことで「こんなイベントも開催できるんだ!」と知ってほしい、「自分達でも何かやってみたい!」と思えるようになってほしい、という思いがありました。

Q/イベントにどう影響しましたか?

A/学生はSNS等を通じた発信力もあるため、彼らがボランティアとして参加してくれることそのものが、イベントの良いPRになっています。年々ボランティアで参加したいという人が増えてきているのも有難いですね。参加した後も、様々な角度から意見をもらえているので、次回に活かし、より継続性・魅力性のあるイベントにしたいです。

